

令和 2 年 6 月 23 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K09189

研究課題名(和文) フィリピン国における産褥期の母親の健康状態と家族の役割に関する研究

研究課題名(英文) The mothers health and family's responsibility during postpartum period in Philippines

研究代表者

佐藤 真理 (SATO, MARI)

東北大学・医学系研究科・大学院非常勤講師

研究者番号：90755886

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、インドネシア国バンテン州地域で1)新生児の成長を含む健康状態に影響する要因を明らかにすること2)家庭で実施されている新生児ケアの慣習について分析すること3)家庭における新生児ケアについてのケア提供者の考えを分析することを目的とした。2019年4月～6月の3カ月間ヘルスセンターで出産した母親と新生児を対象とし面接調査と新生児の発達について出生直後、1週間、1カ月の3回に渡り計測を行った。結果156名の参加者が得られ、新生児のケアについては同居する家族の考えが母親の育児行動に大きく影響し、伝統的なケア方法が現在も根強く残っていることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インドネシアは大小多数の島々からなり、経済状況や生活状況において地域格差が大きい。本研究はジャワ島に位置し、首都に比較的近いバンテン州の中でも、地方に位置し、妊産婦死亡・新生児死亡が高い地域にある郡を対象地域とした。東北大学と連携大学である大学である、Islamic State University, SyarifHidayatullah Jakartaは、バンテン州で研究活動を行い、その結果を行政施策に反映している。本研究の結果はバンテン州における新生児発育・発達の向上、新生児死亡の削減に繋がる施策に反映することができる。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to identify the factors that affect the neonatal growth, and to analyze the quality of home care during neonatal period in Banten province, Indonesia (1)To assess the newborn growth during the first month of life,2)To identify the factors associated with the newborn growth,3)To determine knowledge and practice of mothers and families for newborn care at home). We conducted the interview of the mothers and measuring the newborn body weight and height, at birth, after 1 week and after 1 month. As the result, 156 mothers and newborn were participated. In Banten province, there were still remained the traditional practice of newborn care. Moreover, it was revealed that the opinions and ideas who lived together with the mothers influenced the mothers attitude and behavior to provide the newborn care at home.

研究分野：母子保健

キーワード：育児行動 母親 新生児 発達 インドネシア

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

妊娠出産における母子の死亡は出産直後以降にも高い割合を示し、各国で産後健診の充実に取り組んでいるが、出産後の母子の多様な健康問題や社会的ニーズに十分に対応できていない状況にある。ミレニアム開発目標では、妊産婦死亡率の削減を目指して、妊婦健診や適切な技術を習得した出産助産者による分娩助産、施設分娩の推進などが強化されてきたが、産褥期の定期検診はそれらの介入に比較し立ち遅れており、受診率も低い(1)。

フィリピンは東南アジアの中でも近年妊産婦死亡率の減少が緩慢であり、政府は指針の中で産後健診が重要であると位置づけているが、その受診率はまだ低い(2)。産後健診の受診率を上げるだけでなく、質の向上に努めることは、母子の健康状態を向上させ、死亡率を低減させることに繋がると考えられ、そのためには出産後に母子が家庭でどのように過ごしているのかを把握し、母親の身体面のみならず精神面の健康を把握することが重要である。

2. 研究の目的

本研究では、出産後の母親が家庭でどのような産褥期を過ごし、父親と他キーパーソンが母親に行っているサポート内容を明らかにする。また、産褥期の母親の身体的健康状態に加え、今まで見過ごされてきた精神面の健康と子どもの健康状態について評価し、その関連要因を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、日本とフィリピンにおいて倫理申請が必要であったが、フィリピンにおいて研究倫理申請を行っている RITM (Research Institute for Tropical Medicine)における倫理審査が中々進まない現状があった。そのため、本大学微生物学分野が研究協力を結んでいる Public Health Study Program, Faculty of Medicine and Health Sciences, Islamic State University のあるインドネシアに対象地域を移し、平成 30 年度 5 月に日本・インドネシア国双方において倫理審査を受け、受諾された。

対象地域はインドネシア国バンテン州セラング郡の中でも最も妊産婦死亡や新生児死亡が高い、2つの保健センター(ポンタン保健センター・パロス保健センター)であり、対象者は、2つの保健センターで出産した母親と新生児である。調査内容は、基本属性、今回出産した児に関する妊娠・出産状況、母親の健康(身体面・精神面)と新生児の健康(体重・身長増加量や健康問題について)、家庭で行われている新生児ケアについてであった。目的は一部変更し、本研究は、インドネシア国バンテン州における、母親と新生児の健康状態と問題、問題に対する母親や家族の行動、家庭の中で新生児がどのように育てられているのか、を明らかにすることとした。

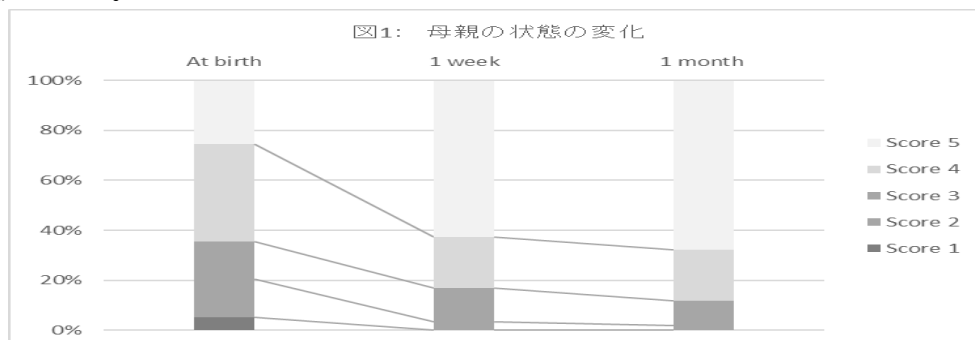
4. 研究成果

(1) データ収集

研究には、ポンタン保健センターで 87 名、パロス保健センターで 59 名、計 146 名の産褥婦と新生児が参加し、出産直後、出産後 1 週間、出産後 1 カ月の 3 時点における質問紙調査と新生児の計測を実施した。

(2) 出産後 1 カ月間の母親の健康状態

参加した母親の平均年齢は 28.5 歳(20-42 歳)であり、初産婦は 22%、経産婦は 78%であった。母親は、平均 2.2 名の子どもを有し、83.1%の母親が 4 回以上妊婦健診を受診して出産に臨んでいた。

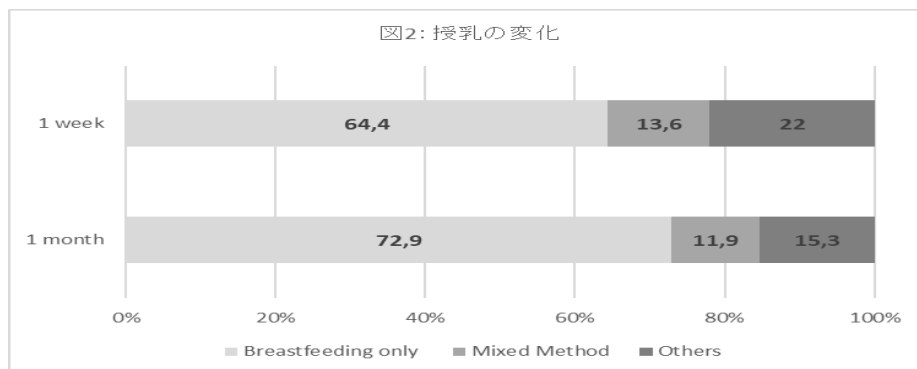


母親の健康状態についてレベル 1 (非常に体調が悪い) からレベル 5 (非常に体調が良い) から選択してもらったところ、図 1 に示したように、出産後 1 カ月までに体調が回復していた。産後 1 週間時における体調不良では、身体全体・会陰縫合部、腰背部の痛みが最も多く、次いで乳房の痛み、頭痛であったが、産後 1 カ月目の体調不良は、不眠によるめまい、風邪、乳房の痛みであり、変化が見られた。母親は、体調不良であっても保健センターや病院を受診することを選択せず、実母や義母、近所の女性から助言を得ていることが明らかになった。

産後の精神状態についてエジンバラ産後うつスケールを用いて評価したが、産後 1 週間と

1 カ月共に点数は低く、うつ傾向にあると評価された母親は 3 名だけであった。しかし、平均点数では産後 1 週間 (3,9) に比較し産後 1 カ月 (2,2) の点数は低く母親の精神面の健康状態は回復していた。日本と比較すると母親が一人で子育てをしている状況には無く、家族の誰かの支援を得て子育てできていることが母親の精神面の健康に影響していることが考えられた。

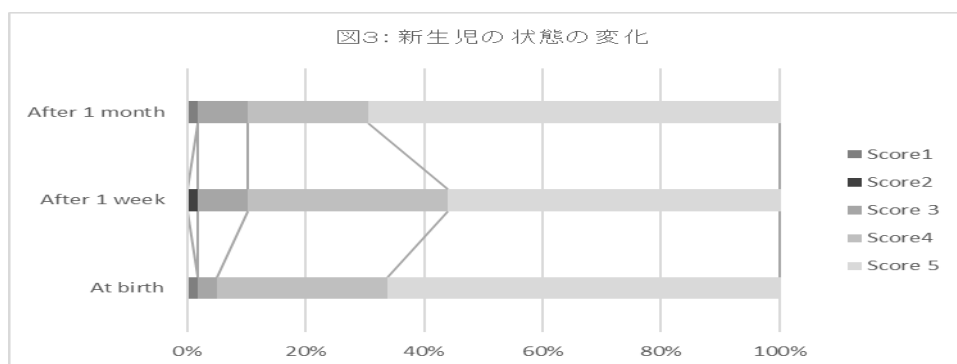
81,4% の母親が初乳を児に与えたと答えており、産後 1 週間目における母乳率は 64,4%、産後 1 カ月では 72,9%と増加していた。産後 1 週間、1 カ月共に授乳に関し問題があったことと



して、乳首のトラブルが多く、次いで乳房の痛みや発熱であった。産後 1 週間目に母乳と人工乳と共にはちみつを与えている母親は 13 名だった。産後 1 カ月時点では、はちみつの他バナナを食べさせていると答えた母親が 2 名であった。

(3) 出産後 1 カ月間の新生児の健康状態

新生児の健康状態についてレベル 1 (非常に体調が悪い) からレベル 5 (非常に体調が良い) から選択してもらったところ、図 3 に示したように、出産直後と産後 1 カ月後に比較し、産後 1 週間目において「非常に体調が良い」という選択した母親が少なかった。産後 1 週間目



における新生児の状態で心配なこととして、皮膚の発赤・発疹、黄疸が多く、その他授乳がうまくいかないこと、臍部の状態などがあった。出生時に比較して産後 1 週間目の体重が減少していた児は 25,4%であり、平均では 140,7g の増加だった。産後 1 カ月目には平均で 975g 増加しており、減少に転じた児はいなかった。母親の健康状態も新生児の健康状態も産後 1 週間目が最も悪いと判断しており、その時期に行う介入が必要であることが示唆された。今後、新生児に問題があった時の母親と家族の行動の関連を含めて分析していく予定である。

(4) 家庭の中で受け継がれている新生児ケア

家庭の中で受け継がれ実施している新生児ケアとして多かったものは、目のふちにアイラインを入れる (79,7%)、ネックレスを付ける (74,6%) (伝統産婆から受け取る)、へその緒が取れた臍部にコーヒーの粉あるいは葉草を塗布する (47,5%)、沐浴後に全身にターメリックを塗る (39,0%)と多かった。その他、ハサミや箒を新生児の傍に置く、米を敷き詰めた上に寝かせるなどのケアも受け継がれていた。理由を聞いてすぐに答えられる母親は少なく、「そのように教えられた」「ずっとやってきた」という返答であった。また、米を敷き詰めた上に新生児を寝かせると将来食べ物に困らない、ネックレスは魔除けと児が大きく育っているのかを確認するなど、言い伝えを信じて行っている行為も見られた。インドネシアの地方ではそれぞれ独特の習慣が残っており、新生児の健康に影響することも考えられ、今後質的調査を実施し細かく分析すると共に、行動変容へつなげる介入研究に繋げていくことが必要である。

引用文献

1. Integrated Management of Childhood Illness chart booklet 2014. WHO. [cited 2017 April 25]; Available from:
http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/104772/16/9789241506823_Chartbook_eng.pdf?ua=1.
2. Understanding Postpartum Healthcare Services and Exploring the Challenges and Motivations of Maternal Health Services Providers in the Philippines: a Qualitative Study. Yamashita T, Suplido SA, Llave C, Tuliao MT, Tanaka Y, Matsuo H. *Tropical medicine and health*. 2015;43(2):123-30. Epub2015/07/15

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Sato Mari, Oshitani Hitoshi, Tamaki Raita, Oyamada Nobuko, Sato Kineko, Nadra Alkaff Raihana, Landicho Jhoys, Alday Portia P, Lupisan Socorro, Tallo Veronica L	4. 巻 8
2. 論文標題 Father's roles and perspectives on healthcare seeking for children with pneumonia: findings of a qualitative study in a rural community of the Philippines	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e023857 ~ e023857
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjopen-2018-023857	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Mari SATO
2. 発表標題 Qualitative analysis of fathers' perspectives on and challenges to seeking care for children with pneumonia in a rural community in the Philippine.
3. 学会等名 The 21st EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars)&11th International Nursing Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小山田 信子 (Oyamada Nobuko) (40250807)	東北大学・医学系研究科・准教授 (11301)	
研究協力者	スマントリ (Sumantri Arif)	イスラミックステイット大学・Public Health Study Program・Professor	
研究協力者	アリヤンティ (Ariyanti Fajar)	イスラミックステイット大学・Public Health Study Program・Professor	